

大分縣文語講座の報告

土屋 博

「文語の苑」は、大分縣立圖書館の古典の日推進講座に全面的に協力し、朗読家熊澤南水先生、高田主任研究員及び小生を参加せしむ。概略次の通り（土屋記）。

講座名…平成二十九年大分縣立圖書館公開講座

「古典の日推進講座」第二回「文語文のすすめ」

日時…平成二十九年九月二日（土曜日）午後一時半より三時まで。

場所…大分縣立圖書館二階視聽覺ホール

プログラム…

主催者挨拶 鹽川也寸志大分縣立圖書館長

講演Ⅰ「文語文のすすめ」 土屋博（文語の苑理事）

朗読 「樋口一葉の十三夜より」 熊澤南水（朗読家、文語の苑會員）

講演Ⅱ「候文の面白さ（實踐篇）」 高田友（文語の苑主任研究員）

「文語の苑」の大分縣に於ける文語普及活動は平成二十八年十一月二十日の文語シンポジウム（「豊の國と古典・文語 廣瀨淡窗を中心にして」）以來、二回目のことなり。廣瀨淡窗以來の極めて教育熱心なる土地柄なれば、今回も熱心なる聴衆の姿有り。

小生（土屋）よりは、文語の具體的勉強法を詳述す。文語の苑刊行教材（文語名文百撰、明治大正文語五十撰など）を積極的に活用すべきこと、無料にて使用可能なる「國會圖書館デジタルコレクション」實は寶の山なること、雨の降る日曜日には大學ノートに方丈記全文を書き寫すことのすすめ（「十讀は一寫に如かず」）、岡崎久彦文語賞第一回受賞者日高聰子さんの勉強法の紹介（自ら源氏物語の朗讀を録音し、それを絶えず聴くことにより、古典のリズムを自然に身に付けることを得）など。

次に、樋口一葉作品朗讀に於いては當代隨一の熊澤南水先生、最もお得意とせらるる「十三夜」を見事に演じられ、聴衆に深き感動を與へたり。

最後に、高田先生壇上に立ち、「明治大正文語五十撰」より、森鷗外「興津彌右衛門の遺書」の候文の鑑賞、更には暗誦のすすめもあり。

参加者の反響は以下の如し。

「いと面白し。初めて聞くことばかりなれば興味深し。」

「雨の日は方丈記を書き寫す・・・、雨の日樂しみとなれり。」

「朗讀に引き込まる。候文の説明も分かり易く、文語を使ひたしと覺ゆ。」

「懐かしき文章も數多く、樂しく聴けり。ローレライなど皆にて一緒に歌ひたき心地でする。」

「大人向けの朗讀は新鮮。『十三夜』、格別に感銘深し。」

「文語文を書く氣持、大いに起れり。」

蓋し、今後に繋がるよき文語講座と成れり。特に、大分縣側担当者S氏との事務的遣り取りすべてを

候文のメールにて行ひたること、記憶に残る。大分縣との良好なる關係、今後とも維持すべく、ゆくゆくは大分に文語教室の開設せらるる日も遠からじと信じたき次第なり。

(參考)

大分の最大手新聞(市場シェア六割)、「大分合同新聞」(九月六日付夕刊)に、「文語に親しみを、書くコツなど傳授 縣立圖書館で講座」なる記事、掲載せらる。

(平成二十九年十月九日受附)